

猫の楽園?!



現在、真和館には約10匹の猫がいます。子猫が1匹、ちょっと大きくなった子猫が3匹、そして成猫が数匹あります。朝・昼・夕と、時間になったらご飯の場所へきて、職員の足元で「ごはんを頂戴～」とねだる可愛い猫たち。特に子猫は可愛い盛りなのですが、増えすぎたため、里親を募集しております。猫好きの方、どうぞ一報ください。可愛い猫たちがお待ちしております。



新入職員ごあいさつ



鶴本 英雄
(生活支援員)

真和館に来て三か月になります。改めて、よろしくお願いたします。前職は介護をしておりました。諸先輩方の手を煩わせることばかりですが、出来ることからコツコツと地道にやっっていこうと思います。



藤森 真奈
(生活支援員)

10月に入職しました、藤森です。福祉のお仕事は初めてですが、経験豊富な先輩方にご指導いただき、日々楽しく働いております。まだまだ至らない点ばかりですが、どうぞよろしくお願いたします。

お誕生者の案内

1月	6日	國本さん	3月	5日	澤田さん
	9日	新名さん		7日	森川ひさん
	10日	守田さん		20日	名越さん
	11日	富田さん	4月	3日	坂崎さん
	12日	石坂さん		5日	菖蒲さん
	13日	中村さん		14日	森元さん
2月	14日	佐藤ふさん	17日	岩永さん	
	16日	緒方ムさん	5月	3日	糸永さん
	31日	杉本さん		14日	村田さん
	2日	緒方マさん		24日	森田さん
	5日	成澤さん	25日	今村さん	
	14日	大津さん	6月	1日	松村さん
16日	西川さん	4日		花岡さん	
24日	佐藤のさん	26日		桑崎さん	
	28日	宮崎さん			

Happy New Year 2024

< 編集後記 >
 明けましておめでとうございます。明るいニュースに乏しいご時世ですが、心身ともに健やかな1年を過ごせますようお祈り申し上げます。

編集責任：二上

発行：社会福祉法人 致知会
救護施設 真和館
 〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村鳥子3072番地
 TEL:(096)279-1121 FAX:(096)279-1122
 E-mail:shinwakan@utopia.ocn.ne.jp
 HP:http://www2.ocn.ne.jp/~titikai/index.html

※「風の彩り」に掲載されている写真等は、ご本人の了解を得ております。

真和館だより 第32号

風の彩り



持続可能な真和館経営を目指して



施設長 藤本知彦

あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご厚情を賜り誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願致します。長期に渡ったコロナ禍も漸く落ち着き、令和6年は久しぶりに日常が戻った明るい新年となりました。真和館でも昨秋から外部への学習会へも参加し始め、またZoomではありますが、令和5年11月25日の第5回地域セミナーでは山口達也様にご講演頂き、250を超える多数のアクセスを頂戴しました。令和6年は新型コロナと上手に付き合いながらコロナ前の状態に戻していきます。

さて、近年SDGs(エスディーゼーエス)という言葉をよく聞くようになりました。ご承知のようにSDGsは「持続可能な(Sustainable)開発(Development)目標(Goals)」という意味であり、2030年までに達成すべき17の目標が掲げられています。最近このSDGsという言葉が聞きますと、人材不足や物価高騰など厳しい外的要因のなか、如何にすれば「Sustainable(持続可能な)施設となれるか?」という言葉が頭をよぎります。当然、真和館が生き残っていくためには、差別化を図るとともに、世の中から必要とされる施設になることが重要ですが、そのためには働く職員の教育や施設設備の保全も重要なポイントとなります。

救護施設真和館は、①入所者、②職員、③施設の三者にバランス良く経営資源を配分し、施設を存続・発展させていくという経営方針があります。そこでこの方針に沿って令和6年の施策を述べさせていただきます。

まずは①の入所者ですが、平成18年4月の施設設立以来、アルコールを中心とした多くの依存症者(入所者の6~7割が依存症者)の回復支援に努めて来ましたが、一方、入所者のほとんどの方(ほぼ全員)が精神疾患を持ちのため、精神障がいへの理解と支援が欠かせません。そのため、現在QC活動で実施している職員個々人がもっている精神障がいに対する知識や経験を形式知(誰が見てもわかる形)にする活動を実施し、支援の強化を図ります。②の職員については、「企業は人なり」という言葉があるように、何よりもまずはそこで働く職員の質が重要です。如何に立派なシステムや施設設備があっても、職員の質が低ければ施設経営はままなりません。真和館は、施設開設以来、職員の教育については力を入れてきましたが、令和6年も引き続き職員のスキルアップを図ります。特に令和5年4月以降に4名の職員が入職しましたので、既存の職員と一緒に、今一度アルコール依存症や各種精神疾患について基礎から学び直します。一方、介護・福祉分野の人材不足は他業種に比して突出しており、人材の確保と定着は喫緊の課題となっています。そこで昨年12月より年金の3階建て部分である企業型確定拠出年金制度を導入し、職員の福利厚生制度を拡充しました。しかしながら人材確保・定着には勿論それだけでは足りず、働きやすい職場にするだけでなく、如何に働き甲斐のある職場にするかが肝要ですので、知恵を絞って対応していきます。③の施設については、平成18年4月の施設設立以来、約18年が経過しており、昨年からの施設の補修費等が増加傾向にありますので、施設整備についても力(お金)を入れて参ります。

このように令和6年も、①入所者、②職員、③施設整備へバランス良く経営資源を投入しながら、真和館の特長である“アルコール依存症からの回復支援”と“精神障がい強い施設”を土台とし、持続可能な施設経営を目指して参りますので、ご支援・ご協力の程お願申し上げます。



地域における公益的な取り組み

社会福祉法人致知会は、地域社会に貢献する取り組みとして、アルコール依存症に対する相談・支援、生活困窮者等に対する相談・支援、生活困窮者等に対する無料又は低額での宿泊支援を致知会の定款に加えるとともに、両施設(救護施設真和館・養護老人ホームあそ上寿園)の正面玄関やホームページ上に「お酒の悩みごと相談所」「福祉の困りごと相談所」の看板を掲げています。

①お酒の悩みごと相談

●令和4年度「お酒の困りごと」相談件数 相談件数 17件、相談者数 11名
真和館では、社会貢献事業として「お酒の悩みごと相談」を実施しています。
ご本人からの相談者数は3名、ご家族や行政関係者からの相談者数が8名となっております。相談のほとんどアルコール依存症者にほとんど困り果てた周りの方からの相談であります。

②お酒に関する出前講座

●令和4年度「お酒に関する出前講座」件数 実施回数 4回
民生委員、自助グループ、企業、保健指導機関、学校等が開催されるお酒に関する講演会や研修会・授業等に無料で講師を派遣しています。
令和4年度は、理事長や依存症当事者の職員が、更宿連全国大会での基調講演をはじめ、熊本県アルコール関連問題学会での発表、また、大学生・中学生に対しての酒害教育などを行いました。



■学生さんの声■ (一部抜粋)

- ◆お話の中で、お酒をやめようと思っても、やめ方を知らない、シラフでいることが怖いということが印象的でした。
- ◆依存症と言うのは、その物や行為がその人にとっては生き抜くために必要なものになっているのだと分かりました。ただ単にその行為を悪いことと捉え、批判するのではなく、依存せざるを得ないその背景にある生きづらさにも目を向けていかなければならないと感じました。
- ◆自分の素直な気持ちを伝えられる信頼できる方とその関係性から生じる「居場所」が、人間にとって非常に重要だと感じました。
- ◆依存症の人は、周りに頼れる人がいないのだと学び、同じような境遇にいる人と話せる自助グループはとても重要な役割を持っていると思いました。

③SBIRTS (エスパーツ) の推進

アルコールのスクリーニングテストを実施し、問題飲酒者には簡易介入を行い、依存症の疑いがあれば専門病院に繋ぎ、そこから自助グループに繋ぐことにより、アルコール依存症から回復していく一連の 방식을SBIRTSと言います。
社会福祉法人致知会では、アルコール依存症者が1日でも早く専門医療や自助グループに繋がるためのお手伝いをしています。

④アルコールに関する地域セミナーの開催

年に1回、アルコール依存症に対する理解の促進を図るために、阿蘇地域の支援者を始めとした地域の方々に対し、「アルコール依存症を理解する・支える」と題して地域セミナーを開催しています。平成29年から阿蘇地域で開催しておりますが、コロナ禍のため、令和3年からオンライン(Zoom)で開催しています。

本年度は11月25日(土) オンライン(Zoom)で、講師として山口達也様を迎え「飲酒とアルコール依存症の関連について」と題し、ご講演をいただきました。
アルコール依存症当事者である山口様自身の、アルコール依存症が進行していく経緯、そして、アルコール専門病院で入院治療を受け、自助グループに繋がり回復していく過程を語っていただきました。
アルコール依存症当事者である山口様は、2018年に飲酒問題で芸能界を引退され、その後、一人で断酒に取り組んでおられましたが、2020年に再飲酒、記憶がない状態でバイクを運転し追突事故を起こしてしまわれます。我に返った山口様は、強烈な不安感を感じ、「お酒を止めたい」という強い思いを持たれ、再び回復の道へ歩み出されます。
入院治療を経て自助グループへ繋がられた現在は、当事者としての自分にできることから始めようと、ご自身の経験を語ることによる社会貢献活動を開始されています。
そして、この地域セミナーを通して、とすれば、心折れそうになる当事者や支援者に向けて「回復することを諦めないで」と力強く呼びかけて下さいました。

●『地域生活の希望』 (3件)

- ・人吉に帰りたいです。
- ・真和館を出て独りで生活をしたい。
- ・私は真和館に来て17年になります。この17年と言う月日を同じ事のくり返して、何の成長もしないで17年を過ぎました。今では、〇〇さんという友達が出来て、楽しい毎日を送っています。娘をたよりにしています。今の私は社会で送りたい、帰りたい気持ちでいっぱいです。書きたい事はまだまだありますが、どんなに書いていいのかわかりません。私の希望を書いていいのかわかりません。真和館を出たい気持ちしかありません。残り少ない人生を社会で送りたい。あと10年も生きていないでしょう。残りの人生をどうか社会で送らせて下さい。おねがい致します。



●『その他』 (32件)

- ・キザミ食が嫌。
- ・支給金を全額支給に戻して下さい。
- ・買物、飲み物を増やしてほしい。
- ・前の生活が良かった。今は洗濯が決まっておもしろくない。
- ・自分自身の性格が原因で生きづらい状態。
- ・慣れてきたけど足が悪いので行事に参加できない。
- ・タバコが吸いたいです。
- ・外からこちらへ電話をした時、名乗らない方のほうが多い気がしました。その際、自分は必ず名前をうかがう様にしていますが、施設の信用にも関わると思うので職員は名乗ることを義務化した方が良いのでは。
- ・今年の真和館の生活を大事にするには、外出のひかえ。友達にTELをして〇〇の人とも合おうと思う。妹にTELをしてやり直しをしたいと思う。
- ・サイフをみつけてちゃんとしてなかったら青の色のサイフ買おうかと思う。見つかったらけじめをつけて青のサイフを買い直そうと思う。
- ・嫌いです。しにくいです。早く退所したいです。性格悪くなりそうです。
- ・「一言でいったら不安と怖い」今年7月〇〇日、ここに来て11月で4ヶ月目。人それぞれ思いは違うが、私は今、坂を下っている。それも思っていたよりも速いスピードで。脇目をふる時間も無い。回りをみるとみんなテレビを見て、寝て。会話をすると食事、悪口等々そんな事話して何があるの？と思うことばかり。みんな明日がないし、第一希望も皆無。そんな毎日の中に居る自分が不安で怖い。自分もここに長く居ると、現在ここに居る人達と同じになるのかなあとと思う、ものすごく怖い。ぜったいみんなの様にはならないと自分に言いかせて日々生活してはいるけど、「慣れ」は怖い。ここに有るのは、変化の無い毎日と変化の無い同じ顔。皆んなよくここで生きていけるなあ、希望は…？。まだ書き足りないけど止める。
- ・真和館に1回目の入所をしたときは、けんかをしたりとさわがしかったが、2回目の入所は1回目に入所したときと比べて、けんかはしないが人間関係がいやらしくなってきたと思う。人の悪口を言ったりする。職員についてあまり不満はない。
- ・ここは“報・連・相”が生えていません。また、こちらからの連絡事項を紙に書いて貼る形をお願いした事がありましたが、それを守られることはありませんでした。信用して部屋を空けた身としては、残念で仕方ありません。
- ・何回も職員の方に話しましたが、ラジオ体操の時間に動けるのにただ集まってイスに座っている人がいたり、タバコの集いも同じで黙っている人がいます。どうかして下さい。できる事ならもっと多くの入所者が参加する様にしてほしいです。
- ・投書箱への意見が反映されていません。
- ・特になし(16件)



入所者アンケート

●『良いところ』 (18件)

- ・私、今真和館の一員になりました。病院と違ってどこにもカギがなくてうれしい。
- ・今はAM5:30に起きて7:30から朝食。おいしいです。パンが好きです。
- ・いつもおいしい給食をありがとうございます。外出も楽しかったです。
- ・とてもいいところだと思います。職員さんもいいです。
- ・今の生活は若い人にはとてもついて行けませんが、自分は自分なりについて行っているつもりです。私も70才をすぎ、もの忘れはするしもう少ししっかりしたらと思うと悲しくなります。真和館の生活は、担当さんが良くして下さいるのでこのままで良いと思います。
- ・担当が〇〇さんで良かった。
- ・運営が続く様みんなと協力し、10年後20年後に向けてマイシンします。今の所十分満足しています。真和館のルールに従い、長く浅く広く、世にはげみます。ハッキリ書けませんが、けいぞくはテレビなり。以上。
- ・毎日落ち着いて生活出来ています。
- ・それなりに自由にさせてもらっているのが特になし。良好。
- ・今のところ、満足しています。希望は別にありません。
- ・良いです。いつもありがとうございます。
- ・住みやすくて良いです。
- ・生活は可もなく不可もなく、皆と仲良くやっています。
- ・普通です。特別に文句はないです。
- ・絶対に良か、何も思わん。
- ・真和館の生活はとてもいいと思う。
- ・今のままでいいです。
- ・楽しいです。



●『悪いところ』 (2件)

- ・希望は、生ぬるいチャンポン・うどん等の汁はかんべんして。味が良くてもマズイ。食べない。
- ・意地の悪い職員をどうにかしてほしい。もう少し自由でいさせてほしい。

●『施設に対する要望』 (6件)

- ・益城病院のデイケアに行きたい。
- ・ご飯の量が少ないのでおかずを増やしてほしい。
- ・一汁三品の毎度の三食につく汁物と毎回の佃煮の袋入りを何か他のに変えて欲しい。
- ・ご飯の時、むだに職員と話を毎回の様にする人がいます。やめてほしい。それに職員もつき合わないで下さい。
- ・希望は、エアコンの設定時間を変えてほしいのが1番ですかね。夏も冬も19時~たったの2時間。入浴時、浴室から更衣室へ移った時も冷たい時があり、急な温度差で倒れる方が出ないかと毎回ヒヤヒヤしています。
- ・職員以外に洗濯物を触らせないでほしいです。なくなったりした場合、どう責任を取るのでしょうか？自分もバスタオルが戻って来ていません。



⑤アルコール依存症学習会の開催

●令和4年度「アルコール依存症学習会」件数 開催回数8回、平均参加者数14名

地域の方を対象にして、アルコール依存症や断酒に関する基礎的なことが学べる「アルコール依存症学習会」を、令和元年9月から、毎月第4土曜日に、あそ上寿園で開催しています。令和2年度からは、コロナ禍のため、真和館で開催しています。真和館及びあそ上寿園の職員が講師となり、様々なテーマ(例:『生きづらさ』の背景にあるもの)「怒りとアルコール依存症」「メタ認知」「認知行動療法」等で、これまでに45回開催しています。感染症(コロナやインフル)が収まってきましたら、また、あそ上寿園で開催しますので、お酒に問題がある方はもちろんのこと、ご家族や支援者の方、どなたでもお気軽にご参加ください。

⑥アルコール依存症者支援手法導入・実践研修

●令和4年度「アルコール依存症者支援手法導入・実践研修」件数 施設件数3件、研修者数5名

近年、救護施設においては、アルコール依存症をはじめとし、薬物・ギャンブル等の依存症の方々が、入所され、その処遇に困っておられる施設も少なくないと思います。そこで、真和館が持っているノウハウを広く公開するため、「アルコール依存症支援者研修会」を平成30年度から実施してきました。令和4年度は、東京都23区の社会福祉法人特別区社会福祉事業団から3名の方(1人3か月)、県内の救護施設と障害者施設からそれぞれ1人の方(各1週間)に研修に来ていただきました。

■更生施設塩崎荘からの研修生派遣について■

私共、社会福祉法人特別区社会福祉事業団は、主に東京23区が共同で設置した生活保護法の更生施設(5施設)・家族が利用する宿所提供施設(4施設)や路上生活者対策施設などの施設を行政から委託を受け運営(指定管理者)しています。

平成28年に昭和46年から続いていました東京都江東区の施設を建て替え新たに事業団立の民設民営の更生施設塩崎荘を開設して受託施設ではない独自の支援を展開しています。

現在東京23区内には障がいのある高齢者やADLが低下した方々を受け入れる救護施設がありません。東京23区は令和7年度に更生施設1施設を廃止し新たに救護施設を建設する予定です。

塩崎荘では、令和4年度から延べ7名の職員をアルコール依存症や発達障がい・知的障がいの方を積極的に受け入れている救護施設真和館様に研修の機会を与えて頂き、利用者個別支援計画の作成やアルコール依存症回復プログラム等を学び、今後開設します都市型救護施設の支援方針を提案してまいります。

※研修派遣人数
R4年度：3名 R5年度：4名 R6年度：6名(予定)

⑦福祉の困りごと相談

●令和4年度「福祉の困りごと」相談件数 相談件数10件、相談者数 3名

病気や障がいで困りごと、施設入所や通所利用等多岐にわたる様々な相談をお受けしています。地域生活を送られる中で、お困りのことをご自身もしくは関係者を通して相談依頼があります。情報提供や訪問、必要に応じて関係機関へ同行しています。

⑧生活困窮者緊急一時救護事業

●令和4年度「生活困窮者緊急一時救護事業」利用者数 利用者数 3名

生活困窮者に対して、公的機関(福祉事務所等)から依頼を受け、短期間、無料又は低額で宿泊と食事を提供します。独居生活が困難になられた方や病状が悪化された方、また、帰来先がない方等様々な理由で利用されています。

⑨生活困窮者認定就労訓練事業

生活困窮者自立支援制度の中に、就労支援事業という仕組みがあります。これは、事業者が自治体から認定を受けて就労に困難を抱える生活困窮者に、その状況に応じた就労の機会を提供するとともに、生活面や健康面での支援も行うものです。そして、本人の状況に合わせてステップアップし、最終的には一般就労等につなげることが目的です。

真和館では、熊本県から平成31年2月に認定就労訓練事業の認定をいただきました。ただ、残念ながら、現在は、この事業を利用されている方はいらっしゃいません。

支援力の強化をめざして

真和館は入所者に対する支援力の強化を目指し、様々な研修を実施しています。今回はその一部を紹介させていただきます。

研修 自己覚知研修

支援者が自分のことを知ることで自己覚知は、支援をする上で重要なことです。元八代児童相談所所長で臨床心理士・公認心理師の和田登志子先生に、自己覚知についての職員研修を3回行って頂きました。支援者は自分のフィルターを通して入所者を見ているため、フィルターが曇っていたり偏っていると、入所者が曇ったり偏ったりして見えます。自分がどのようなフィルターを持ち、どのような課題があり、その課題にどのように取り組めばよいのかについて、認知行動療法とスキーマ療法を通し、自分自身の点検をしました。短い研修時間ですので、自己覚知のほんの入口しか学べませんでしたが、良い支援を行うには自分がどのような人間なのかを知り、認知を変えれば自動思考が変わり、感情が変わり、行動が変わるということや、自分の持っているスキーマなど、たくさんのことを学びました。

研修 相談支援研修

真和館では、1年に4回、認定社会福祉士の堀端裕先生をお迎えし、特定の入所者(その時支援に苦慮している方)のケアについて検討しています。職員を2班に分け、午前と午後、各1時間半話し合います。入所者のヒストリー(生い立ちから現在の施設生活に至るまで)とジェノグラム、エコマップ、年表、医務の視点を作成して事前に配布し、各自で読み込みます。その上で、研修当日はブレインストーミング方式で、マインドマップを作ります。「今後について」「怒り」「人との付き合い方」など、その方の特徴や、困りごとをマインドマップの中心に据え、意見を出し合います。すると、各職員が持っている情報が飛び出し、知らなかった一面が現れ、支援の方向性が一致していきます。最後に先生からご講評いただき、私達では足りなかった視点等を示唆していただきます。その入所者を深く知ることができ、支援を行っていくための大切な研修会となっています。

研修 CVPPP(包括的暴力防止プログラム)トレーナー研修

真和館はCVPPPの研修に令和3年から鋭意取り組み始めています。今回は肥前精神医療センターの研修に参加した職員の感想を掲載します。

令和5年10月24日～27日まで、国立病院機構肥前精神医療センター主催の包括的暴力防止プログラム(CVPPP)トレーナー研修に参加した。

CVPPPとは何か?と問われた時に当初、「暴力から身を守るための研修」という単純な解釈をしていた。でも実際は全く考え方が違った。重要なのは、「自分は何のために手技を学ぶのか?」を意識して考え、真の目的は「利用者のケアを第一に」という認識を強く持つこと。そして「暴力は抑えるもの、封じ込めるもの」ではなく、いかにして「暴力を起こす原因を作らないか」、それこそがCVPPPの真髄ともいえる最も重要なポイントになると認識した。暴力行為そのものに焦点を当ててしまうと、利用者自身を一瞬にして「悪」と見なしてしまう。そうではなく「暴力行為に至った原因は何なのか?」を立ち止まって冷静に考えること、それが重要である。利用者自身が抱える身体的問題や対人問題その他、環境的要因など、背景には色々あるだろう。一方で、支援側が「暴力に至る前に利用者に対してどのような関わりをしてきたか?」というのも非常に重要で、ひょっとしたら暴力の原因を支援側が作り出している可能性もある。つまり、日常での利用者との関わり方次第で暴力が発生することもあれば未然に防ぐこともできるということだ。「支援者と利用者との関係が良好ならばそこに暴力は発生しない」と言いたいところだが実際はどうなのか?何を持って良好と言えるのか?正直なところよく分からない。支援者と入所者という各々の立場は抜きにして、相手が障害者に限らず人間同士の関わりの中で、お互いが自分の気持ちを素直に発信し、そして互いが相手の気持ちを受け入れることが何の抵抗もなく自然にできて初めて良好な関係と言えるのかも知れない。言うのは簡単だが、そこに至るにはそれなりの時間と訓練が必要だ。

館外レク・行事 再開!!

令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症が感染症法の「5類感染症」に位置づけられました。それに伴い、真和館でも、少しずつ活動を再開しています。まずは、山登り・歩こう会(ウォーキング)・誕生者食事会・買い物を開始しています。入所者さんの笑顔あふれる外出レクリエーションや行事になるよう、取り組んでおります。

山登り

「山登り」では、これまで体力や脚力を重視した中・長距離の登山(冠岳、一の峰等)をしてきました。しかし入所者の高齢化に伴い、体力面に配慮した低山散策(田子山、神園山等)に重視した取り組みへと変化しています。このことにより、軽装での登山が可能になり、これまで参加することの出来なかった入所者も参加できるようになりました。より多くの方々に身も心もリフレッシュしていただけるよう取り組んでいきたいと思っております。



歩こう会



ウォーキング

毎週木曜日の午前に、歩こう会(ウォーキング)を開催しています。近隣のテクノ緑地中央公園では、自然に囲まれ心身がリフレッシュできる環境の中で歩いています。公園の中央にはカーテンシャワーや噴水等の設備もあり、皆さん楽しんでいます。雨天時には、パークドーム熊本にて、気分転換を兼ねたウォーキングを行っています。参加された方々から、「公園が綺麗で歩きやすい」「マイペースで歩けるのでまた参加したいです」という声が聞かれています。



真和館では、月初めに誕生会を開き、誕生日を迎えられた方を皆で祝い、その後、レストランへお連れし、好きな昼食を食べていただくことが恒例でしたが、コロナ禍で中止となっておりました。ようやく今年の6月から、3年振りに入居者の方をレストランへお連れすることが出来るようになりました。久しぶりの外出に何を着て行こうかと相談される方、何度も日程を尋ねに来られる方など、喜びを隠せない様子でした。当日、COFFEE PLAZA EASTに到着すると、各々好きな物を注文をされ、ビックリするほど食べられる方もおられ、気分転換を図っていただいています。また、ここCOFFEE PLAZA EASTは、阿蘇駅の近くにあり、道中車窓から見る阿蘇の雄大な景色も醍醐味の1つでもあります。今後も、入所者の方々と楽しみながら誕生者食事会を続けて行きたいと思っております。

誕生者食事会



2003年に公開された映画「黄泉がえり」のロケ地に使用されたこと。デビュー間もない長澤まさみさん演じる高校生がアルバイトしている店という設定で登場しています。

買い物



コロナ対策で、令和2年度から買い物を中止していました。買い物ができない代わりに、入所者の皆さまには、令和3年度から導入した通信販売を利用いただいています。通販は、コロナ対策としては、大変助かっています。入所者の皆さんは買い物の再開を強く希望されていたので、今年の6月から、ようやく2回の買い物(イオン、コスモス)を再開しました。入所者さんは、「待ちに待った」という感じで、自分で直接購入することを楽しんでおられます。今のところ、通常通り買い物に行くことが出来ていますが、コロナやインフルなど感染対策も考えながら、慎重に実施したいと思っています。